

令和元年度 新潟市新津育ちの森事業報告書

特定非営利活動法人ヒューマン・エイド二十二

代表 椎谷 照美

1 交流事業

1. あそびの広場

利用者と職員、および利用者相互の交流の広場と位置づけている。保護者と子どもが楽しく安全に遊べる場になるよう、採光、換気、衛生に配慮し、子どもの年齢に考慮した遊具を備え付けている。毎日午前午後、手遊びやふれあい遊びを行う「スポットタイム」を実施し、来館した親子で遊びを楽しめる時間を提供した。

また、季節や行事を親子で楽しめる内容のイベントを企画した。館内装飾、スポットタイムなど、親子で楽しめるプログラムを提供し、利用者から好評を得た。地域の祭りや、子どもの日、七夕等日本古来の風習に親しむ機会を設けた結果、子どもも大人も気軽に参加でき、来館のきっかけ作りになっている。

初めて育ちの森を利用される方には、館内を利用しやすいように案内をしている。また、一人で来館している利用者に声をかけ、孤立させないように配慮している。

サロンは、同じような月齢のお子さんを持つ親子が交流、情報交換の場になるような雰囲気づくりを行った。ロビーにお茶コーナーを設置し、子どもを見ながらもくつろぎ、交流できるようにしている。安全面を考慮し、週3回午前2回午後1回、ベビー専用(1歳7カ月まで)の日を設定している。要望に応え、毎週火曜日の午後は、入園していても3歳11カ月までの子どもが利用できる日を設定し、入園してからの子どもの相談、保護者自身の相談も対応した。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、令和2年3月2日より3月末まで臨時休館。

- (1)開館日時 ・日曜祝日、年末年始、土曜午後、館内メンテナンスを除く毎日
午前の部 9:00～12:00
午後の部 13:00～16:00
- (2)場 所 ・プレイルーム
・サークルルーム1 (部屋の貸出のない場合 木製レール電車あそび)
・サークルルーム2 (部屋の貸出のない場合 ドールハウス、ブロック)
・図書コーナー
- (3)利用者数 ・利用数……延べ 13,625人
- (4)チケット売上 ・チケット売り上げ数……6枚

【表A】開放区分

	月	火	水	木	金	土
午前	ベビー	フリー	ベビー	フリー	フリー	フリー
午後	フリー	フリー※	フリー	ベビー	フリー	休み

※火曜日の午後は、入園している3歳11カ月のお子さんも利用できる日に設定。

季節のイベント開催

4月24,25日	こどもの日祭り 入場者延べ99人	12月17,18,19日	森のクリスマス 入場者延べ255人
7月2,3,4日	七夕祭り 入場者延べ184人	1月28,29,30日	節分スポットタイム 入場者延べ222人
9月26日	交通安全教室 入場者延べ48人	2月25日 ※26,27日は、新型コロナウイルス拡散防止の 為中止	ひな祭りスポットタイム 入場者67人
10月 29,30,31日	育ちの森ハロウィン 入場者延べ229人	3月23,25,26日 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	ありがとうの会（森の 卒業式） 0人
2月18日	虫歯予防・歯磨き指導 入場者66人	避難訓練 7月25日、3月12日、3月19日の 3回 防犯訓練 3月18日	

2. サロン

利用者のニーズに沿った内容のサロンを企画、実施。職員がコーディネーターを務め、気軽な雰囲気の中で、交流や情報交換などを行った。ゲストを招いてのサロンや、発達に応じたサロンを開催した。

「パパサロン」

父親の育児参加と子育ての情報共有・交流を目的として、毎月1回実施。職員がコーディネーターを務め、遊びながらパパ同士の交流を促し、情報交換を行った。

（運動あそび、木育玩具、折り紙、新聞紙あそび、タッチケア等）

「ようこそサロン」

子育て支援センターを利用したことがない方が、気軽に利用できるきっかけとなるよう、「育ちの森へようこそサロン」を開催。一部屋を初めて育ちの森を利用する方のために環境設定し、育ちの森館内についての説明、利用できる事業内容について説明している。

ふれあい遊びや情報交換を通して、利用者同士が交流し、次回の利用につながるようスタッフが関わった。

「赤ちゃんのへや」「ハイハイのへや」

同じような月齢の乳児を持つ親同士の交流・情報交換がしたいという要望を受け、ねんねの赤ちゃん対象の「赤ちゃんのへや」、ハイハイが始まり歩行する前までの「ハイハイのへや」を開催した。赤ちゃんとのふれあいやあそび、発達の相談、離乳食の進め方等、月齢に応じた情報交換や交流を行った。

「テーマのある森のサロン」

子育てに必要な情報、関心の高いもの等の中から、テーマを決めサロンを開催した。

- ・「紫外線対策サロン」「小児科医に聞いてみようサロン」「防災サロン」「発達に応じた絵本の読み聞かせ」等

2. 相談事業

利用者からの相談に随時対応した。必要に応じ、相談室を使用し個別に相談対応を行った。電話相談・Eメールによる相談も随時対応した。

3月1日から3月末までの期間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館になったが、電話、メールでの相談対応は通常通り対応した。

職員は相談の初期対応を行い、専門的な関わりが必要な場合は職員間で協議し、必要に応じて速やかに各機関につなげ、連携して支援を行った。

子育ての悩み相談の他、自身のこと、家族、ママ友、持病、経済的なこと等、相談内容が多岐にわたっている。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、子どもを持つ親の不安や、休校・休園により子どもが家にいるストレス等の相談も受けた。
相談件数 計 1,924 件（電話・メール・面談）

3. 保育事業

「一時預かり」

事前登録を行い、当日保育カルテを確認、検温後、子どもの体調を確認し保育した。休養、通院、冠婚葬祭、求職、仕事復帰準備等の理由が主であるが、相談時に子どもと離れて相談するために利用するケースもあった。

「保育ルーム」

講座に保育ルームを設け、保育が必要な子どもを保育した。保育カルテ（保育ルーム専用カルテ）に記入後、一時預かりと同じように体調の確認を行い、事前にミーティングを行い、保育するにあたっての必要事項の確認を行った。

一時預かり・保育ルーム共に、時間や年齢等規定に合わない条件の場合は、他の団体や保育園を紹介するなど、外部との連携を図り、柔軟に対応した。保育ルームには、保育者のほかに職員が入り、保育・総括した。

1. 一時預かり

保育件数……125 件

平均利用時間……3.06 時間

2. 保育ルーム

(1) 保育数……延べ 204 人

(2) 開 設……36 回

保育時間は 2 時間

4. 講座

育児ストレスや育児不安の軽減を図るため、子どもの成長、発育などの知識を得たい、交流する時間を持ちたい、という利用者のニーズに応じたセミナーを企画実施した。

キャンセル待ちが出た場合、追加でセミナーを開催する等、できるだけ多くの方の要望

に応えた。

また、セミナー内で交流や意見交換ができるよう職員がコーディネートした。セミナー終了後アンケートを取り、結果をセミナー企画の参考にするなどし、内容の充実を図った。

(1) 育児に必要な知識の提供や情報交換、子どもとの関わりを学習する講座

子育てハッピーセミナー、タッチケアセミナー

(2) 地域の子育て支援講座

サークル研修セミナー

(3) 市民も気軽に参加できる講座

メモリアルブック、メモリーブック

講座参加総数 783 人

5. 情報発信

子育て中の保護者の声や様子から情報提供の重要性を感じている。ホームページ、支援センターたより、季刊情報誌「Cocokara」、コミュニティFM局の番組で情報を提供した。

- ・情報誌「Cocokara（ここから）」年4回（4・7・10・1月）編集発行。（B5版、28ページ4,000部）新潟市内保育園・公民館・公共施設・公共機関等を中心に配布
- ・HPを随時アップデート。年間アクセス数24,821件
- ・図書コーナーの育児・情報書籍の貸し出し。年間128冊
- ・ラジオチャットFMにいつ「子育て応援します CHATランド」で子育ての情報を発信。

6. 子育てサークル支援

当館の利用が困難、地域で仲間づくりがしたい等の理由で、子育てサークルの役割は重要であると考え、子育てサークルの運営支援を実施。

1. 子育てサークル支援研修・サークル限定日

- ・サークルリーダーを対象とした研修会を開催。（年2回）参加人数6人
- ・各サークルの交流を目的にサークル限定日を年1回実施。

参加サークル 3サークル

2. サークル出張・相談

- ・希望のあったサークルにスタッフが出向き、手遊びやふれあい遊びなどを提供。
- 実施サークル 3サークル
- ・サークルの活動を積極的にサポートするため、運営や人間関係、活動内容などの相談対応を行った。

※子育てサークルからの要望により、講師の情報提供を行った。

7. 地域との連携

1. 遊びの広場サポーター・保育サポーター研修を実施

遊びの広場、保育に関わるサポーターに対して研修等を実施。サポーター同士の交流

スキルの向上を図るため実施。

保育サポーター研修 3回 登録サポーター 18人

2. ボランティア育成・支援

地域の人材を子育て支援の現場に活動できる場を設けた。

- ・手作りおもちゃやエプロンシアターの製作。 月3～4回 ボランティア5人
- ・季刊誌「Cocokara（ここから）」の4コマまんが、他ボランティア3人
- ・花壇ボランティア 2人

8. 次世代育成

1. 中学生職場体験受け入れ

- ・新潟市立新津第一中学校2年生受け入れ 2人
- ・新潟市立金津中学校2年生受け入れ 2人

2. 大学、専門学校実習及び研修（育ちの森見学後、子育て支援に関する講義及び実習）

- ・新潟大学医学部保健学科 看護学専攻臨床実習3年生 82人
- ・新潟看護医療専門学校看護学科 母性看護学実習3年生 39人

事業実施のための体制

(1) 開館時間	月～金曜日	9:00～16:00
	土曜日	9:00～12:00
(2) 職員	館長	1名
	副館長	1名
	受付事務	1名
	広報担当	1名
	保育士	3名
	看護師	1名
	パート職員	1名
	用務員	2名（1名枠を2名体制）
(3) サポートスタッフ	一時預かり・保育ルームなど、必要に応じてサポーターを配置	

自主事業報告書

事業名

ママと一緒にフラダンス

実施状況（実施日時・利用人数等）

フラダンスを通して親子共に、体を動かすことの楽しさを体験する。赤ちゃんもフラダンスのリズムに合わせてゆられ、心地よく過ごすことができる。幼児も親子で音楽に合わせて体を動かすことを楽しめる。ストレス発散にもなり、気負いなく継続して参加しやすい事業。

参加人数 日程表

ベビーフラダンス			ママと一緒にフラダンス		
開催月日	時間	利用人数	開催月日	時間	利用人数
4月1日	午前10時20分～10時40分	26	4月4日	午前10時20分～10時40分	14
5月27日	〃	16	5月9日	〃	8
6月10日	〃	18	6月20日	〃	15
7月18日	〃	24	7月18日	〃	8
8月22日	午後2時10分～2時30分	10	8月1日	〃	7
9月25日	午前10時20分～10時40分	18	9月5日	〃	8
10月23日	〃	18	10月18日	〃	6
11月28日	午後2時10分～2時30分	8	11月28日	〃	26
12月5日	〃	12	12月20日	〃	17
1月15日	午前10時20分～10時40分	7	1月24日	〃	27
2月5日	〃	6	2月13日	〃	14
	計	163人		計	150人

実施回数 22回 総参加者数 313人

(2) 目的の達成状況

フラダンスをめぐって利用される方も増え、最初は緊張されている方も、スタッフがインストラクターとして、リードをしていますので場を和ませながら参加者も、ハワイアンミュージックにのり、フラダンスを楽しんでいる様子だった。ぐずっていた赤ちゃんも、抱っこ紐の中で眠り、心地よさそうに過ごしていた。毎月の開催を楽しみに参加していること、参加人数も300人を超えたことから、目標は達成している。

(3) 利用者の反応・満足度と今後の対応

利用者からは「ママになってから体を動かす機会がなかったもので、子どもと一緒にフラダンスを踊れるのはうれしい」「子どもが眠そうでグズグズいていたのに落ち着いた」「子どもが意外と踊れて楽しそうにしている姿に癒された」等の声も聞かれ、参加者の満足度は高いと感じている。

新しい生活様式の中で、衛生面、ソーシャルディスタンスに配慮し、継続実施ができるように検討していきたい。

(4) 収支決算 この事業に係る経費は発生しない

自主事業報告書

事業名 にいつ夏祭り 三之町屋台によるお囃子「松坂流し」

(1) 実施状況（実施日時・利用人数等）

実施日時 令和元年8月17日 午前11時～11時20分

実施回数 1回

参加者数 24人

目的

- ・新津夏祭りのお囃子新津松坂を楽しむ。
- ・屋台のお囃子をライブで聴き、祭りの雰囲気味わう。

(2) 目的の達成状況

地域の方から、祭りのお囃子を、育ちの森で披露してもらうことで、乳児から幼児まで、にいつ祭りに足を運ぶことができない方にも、新津の伝統行事を体験していただくことができた。

日常の中で耳にすることがない笛や太鼓の音を聴き、子どもも大人も体を揺らし、手拍子を楽しんでいた。お囃子の方に参加して頂き、一緒に村祭りの曲に合わせて合奏を楽しんだ。

親子で祭りの雰囲気を楽しんでいる様子が伝わったことから、目標は達成できたと感じている。

(3) 利用者の反応・満足度と今後の対応

「祭囃子を楽しみに今日来ました」「子どもの頃踊ったので、懐かしくて来ました」等の声があり、生の太鼓や笛、鐘の音を楽しんでいた。赤ちゃんも一緒に笑顔で参加し、大人も地域の祭りの雰囲気を味わっていた。地域の協力を得て、伝統的な祭りのお囃子を今後も継続して実施していきたい。新しい生活様式の中で実施は難しいかもしれないが、お祭りの雰囲気を味わえる機会を検討していく。

(4) 収支決算 この事業に係る経費は発生しない

自主事業報告書

事業名

学年別限定日

(1) 実施状況（実施日時・利用人数等）

同じ学年の子ども同士、年齢に応じたあそびの提供を行った。プレイルーム、サークルルームの玩具の選定・配置を工夫し、同じ学年ならではのあそびを楽しめるようにした。同じ学年の子どもを持つ親同士で情報交換を行える機会として企画した。

平成 29 年度生まれ限定日（平成 29 年 4 月 2 日～平成 30 年 4 月 1 日生まれ対象）

平成 30 年度生まれ限定日（平成 30 年 4 月 2 日～平成 31 年 4 月 1 日生まれ対象）

限定日利用参加人数

平成 29 年度生まれ			平成 30 年度生まれ		
開催月日	時間	利用人数	開催月日	時間	利用人数
4 月 12 日	9 時～12 時	33	5 月 10 日	9 時～12 時	33
7 月 12 日	9 時～12 時	18	8 月 9 日	9 時～12 時	40
9 月 13 日	9 時～12 時	40	10 月 11 日	9 時～12 時	41
11 月 8 日	9 時～12 時	22	12 月 13 日	9 時～12 時	39
2 月 7 日	9 時～12 時	29	1 月 10 日	9 時～12 時	36
3 月 13 日	9 時～12 時	中止	計		189 人
計		142 人			

実施回数 10 回 総参加者数 331 人（親子）

- ・同学年の子どもと遊ばせる機会を求めて、限定日を目指して利用する方も多かった。
- ・年齢に沿ったあそびの場、環境を整えた。あそびの提供の時間（スポットタイム）も、年齢に応じた体操などの内容を提供した。

(2) 目的の達成状況

通常利用では経験できない同じ年齢ならではの、新聞紙で遊べる部屋、ボールで遊べる部屋、お店屋さんごっこ等、各部屋であそびの環境を整え、提供した。新聞紙の部屋やボールあそびの部屋では、普段の利用では見られないこどもたちの表情を見ることができ、同じ学年ならではの成長に応じたあそびが楽しめた。お茶コーナーで、親同士が情報交換している姿もみられた。小さな子どもに気を遣わずに、ダイナミックに遊んでいた。お茶コーナーで、親同士が情報交換している姿もみられた。人数も多すぎず、充分楽しめているようだった。

(3) 利用者の反応・満足度と今後の対応

「体を動かして遊ぶことが、楽しいと感じたようです」「家でもできる新聞紙あそびを経験できて良かった」「子どもを思いっきり遊ばせることができ、親もストレス発散になった」等の意見が聞かれた。この年齢ならではのあそびが楽しめていた。次年度以降も継続して実施していきたいが、新しい生活様式の中で、玩具の配置や衛生に配慮して実施できるよう検討していきたい。

(4) 収支決算 この事業に係る経費は発生しない